令和6年度

授業進度計画

（シラバス）

1年次

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校
看 護 学 科

目　　次

教育課程表 …… 1
カリキュラム構造図 …… 3

1年次
- 教育心理学 …… 4
- 教育学(教育原理・教育方法論) …… 5
- 論理的思考の基礎 …… 6
- 情報モラル …… 7
- 情報科学概論 …… 8
- 倫理学Ⅰ …… 9
- 法学概論 …… 10
- 家族社会学 …… 11
- 英語コミュニケーション …… 12
- コミュニケーショントレーニングⅠ …… 13
- 人体の構造学Ⅰ …… 14
- 人体の構造学Ⅱ …… 15
- 人体の機能学Ⅰ …… 16
- 人体の機能学Ⅱ …… 17
- 臨床生化学 …… 18
- 感染防御学 …… 19
- 病理学 …… 20
- 疾病治療学Ⅰ(呼吸・循環・消化器) …… 21
- 基礎看護学概論Ⅰ(概念・歴史) …… 22
- 基礎看護学概論Ⅱ(看護倫理・理論) …… 23
- 基礎看護技術論Ⅰ(ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・感染) …… 24
- 基礎看護技術論Ⅱ(ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ・看護記録) …… 25
- 基礎看護方法論Ⅰ(環境・活動) …… 26
- 基礎看護方法論Ⅱ(清潔) …… 27
- 基礎看護方法論Ⅲ(食事・排泄) …… 28
- 臨床援助技術論Ⅰ(与薬) …… 29
- 臨床援助技術論Ⅲ(経過別・症状別) …… 30
- 看護演習Ⅰ(基礎Ⅰ:技術・リフレクション) …… 31
- 在宅看護概論 …… 32
- 成人看護学概論 …… 33
- 老年看護学概論 …… 34
- 小児看護学概論 …… 35

臨地実習
- 基礎看護学Ⅰ実習(対象理解) …… 36

学則第8条 21条関係

別表1－1 看護学科/4年制　　（令和6年度入学生）　　(1/2)

授業科目			単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
教育内容		科目名						
基礎分野	科学的思考の基礎	教育心理学	1	30	30			
		教育学(教育原理・教育方法論)	1	30	30			
		論理的思考の基礎	1	20	20			
		看護物理学	1	15		15		
		情報モラル	1	15	15			
		情報科学概論	1	15	15			
		コンピュータ情報処理演習	1	30		30		
		小計	7	155	110	45		
	人間と生活・社会の理解	倫理学Ⅰ	1	15	15			
		倫理学Ⅱ	1	15				15
		法学概論	1	15	15			
		家族社会学	1	15	15			
		英語コミュニケーション	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅠ	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅡ	1	30		30		
		コミュニケーショントレーニングⅢ	1	15			15	
		人間理解の基礎	1	15			15	
		小計	9	180	105	30	30	15
	計		16	335	215	75	30	15
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅱ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅲ（演習）	1	15		15		
		人体の機能学Ⅰ	1	30	30			
		人体の機能学Ⅱ	1	30	30			
		臨床生化学	1	20	20			
		臨床栄養学	1	20		20		
		小計	7	175	140	35		
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学	1	30	30			
		病理学	1	30	30			
		臨床薬理学	1	30			30	
		疾病治療学Ⅰ（呼吸・循環・消化器）	2	40	40			
		疾病治療学Ⅱ（内分泌・免疫・血液）	1	30		30		
		疾病治療学Ⅲ（脳神経・運動・精神）	1	30		30		
		疾病治療学Ⅳ（小児・腎・泌）	1	30		30		
		疾病治療学Ⅴ（生殖器・周産期）	1	15		15		
		リハビリテーション論	1	15		15		
		小計	10	250	100	120	30	
	健康支援と社会保障制度	看護と法律(保助看法・関係法規)	1	30				30
		公衆衛生学	1	20		20		
		社会福祉・社会保障論	1	30		30		
		保健指導論(健康科学概論含む)	2	40			40	
		保健統計	1	20			20	
		小計	6	140		50	60	30
	計		23	565	240	205	90	30
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ（概念・歴史）	1	30	30			
		基礎看護学概論Ⅱ（看護倫理・理論）	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅰ（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・感染）	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅱ（ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ・看護記録）	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅲ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1	20		20		
		基礎看護方法論Ⅰ（環境・活動）	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅱ（清潔）	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅲ（食事・排泄）	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅰ（与薬）	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅱ（検査・治療）	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅲ（経過別・症状別）	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅳ（看護過程）	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅴ（看護過程の実際）	1	15		15		
		看護演習Ⅰ（基礎Ⅰ：技術・リフレ）	1	15	15			
		看護演習Ⅱ（基礎Ⅱ：技術・リフレ）	1	15		15		
		小計	15	365	255	110		
	地域・在宅看護論	地域看護学	1	15			15	
		在宅看護概論	1	15	15			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ（家族援助）	1	30		30		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ（技術）	1	30			30	
		地域・在宅看護方法論Ⅲ（展開・演習）	1	30				30
		看護演習Ⅲ（在宅：技術・リフレ）	1	15				15
		小計	6	135	15	30	45	45

別表1－1　看護学科/4年制　　（令和6年度入学生）　　(2/2)

授業科目			単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
教育内容		科目名						
専門分野	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護方法論 Ⅰ（呼吸・循環）	1	30		30		
		成人看護方法論 Ⅱ（アレルギー・血液）	1	20		20		
		成人看護方法論 Ⅲ（脳・代謝）	1	30		30		
		成人看護方法論 Ⅳ（消化器・生殖・男がん看護過程）	1	30		30		
		看護演習Ⅳ（成老Ⅰ：技術・リフレ）	1	15		15		
		看護演習Ⅴ（救急蘇生法）	1	15			15	
		小計	7	170	30	125	15	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
		老年看護方法論 Ⅰ（運動・腎）	1	15		15		
		老年看護方法論 Ⅱ（生殖器系・感覚器系・認知症・がん・終末）	1	30			30	
		老年看護方法論 Ⅲ（看護過程）	1	20			20	
		看護演習Ⅵ（成老：技術・リフレ）	1	15			15	
		小計	5	110	30	15	65	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
		小児看護方法論 Ⅰ（発達段階別）	1	30		30		
		小児看護方法論 Ⅱ（症状別看護）	1	30		30		
		小児看護方法論 Ⅲ（看護過程）	1	15			15	
		看護演習Ⅶ（小児：技術・リフレ）	1	15			15	
		小計	5	120	30	60	30	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		
		母性看護方法論 Ⅰ（妊娠・分娩・新生児）	1	30		30		
		母性看護方法論 Ⅱ（産褥・育児）	1	30			30	
		母性看護方法論 Ⅲ（看護過程）	1	15			15	
		看護演習Ⅷ（母性：技術・沐浴演習・リフレ）	1	15			15	
		小計	5	120		60	60	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		
		精神看護方法論Ⅰ（症状別看護）	1	30			30	
		精神看護方法論Ⅱ（生活）	1	30				30
		精神看護方法論Ⅲ（看護過程）	1	15				15
		看護演習Ⅸ（精神：技術・リフレ）	1	15				15
		小計	5	120		30	30	60
	看護の統合と実践	看護管理論Ⅰ（医療安全）	1	15				15
		看護管理論Ⅱ（看護マネジメント）	1	15				15
		災害看護論（トリアージ含む）	1	30				30
		国際看護論	1	15				15
		看護研究Ⅰ（基礎）	1	30			30	
		看護研究Ⅱ（実践・研究発表含む）	1	30				30
		看護の展望（学会参加・看護観発表会含む）	1	30				30
		救急蘇生法Ⅰ（日赤救急法含む）	1	15		15		
		救急蘇生法Ⅱ（BLS研修含む）	1	30				30
		看護演習Ⅹ（生活：技術・リフレ）	1	20				20
		看護演習Ⅺ（統合：技術・リフレ）	1	30				30
		総合看護セミナーⅠ（総合看護過程Ⅰ）	1	30				30
		総合看護セミナーⅡ（総合看護過程Ⅱ）	1	30				30
		総合看護セミナーⅢ（卒業前演習）	1	20				20
		小計	14	340		15	30	295
	臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習（対象理解）	1	45	45			
		基礎看護学Ⅱ実習（日常生活援助）	2	90		90		
		地域看護学実習（居場所・産業・行政）	1	45			45	
		地域・在宅看護論実習	2	90				90
		成人・老年看護学Ⅰ実習（看護過程展開）	2	90		90		
		成人・老年看護学Ⅱ実習（急性期・回復期）	2	90			90	
		成人・老年看護学Ⅲ実習（慢性期・終末期）	2	90			90	
		成人・老年看護学Ⅳ実習（リハビリテーション・継続看護等）	2	90			90	
		小児看護学実習	2	60			60	
		母性看護学実習	2	60			60	
		精神看護学実習	2	90				90
		生活援助実習（施設等）	2	90				90
		看護の統合と実践実習	2	90				90
		臨地実習　計	24	1020	45	180	435	360
総合計			125	3400	860	905	830	805

カリキュラム構造図

教　育　理　念

教　育　目　標

専門分野	看護の統合と実践		看護管理論Ⅰ・Ⅱ、災害看護論、国際看護論、看護研究Ⅰ・Ⅱ 看護の展望、救急蘇生法Ⅰ・Ⅱ、看護演習Ⅹ・Ⅺ 総合看護セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ
			臨地実習：生活援助実習、看護の統合と実践実習
	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ	
		精神看護方法論Ⅰ	
		精神看護方法論Ⅱ	
		精神看護学実習	
		看護演習Ⅸ	
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ	
		小児看護方法論Ⅰ	
		小児看護方法論Ⅱ	
		小児看護方法論Ⅲ	
		小児看護学実習	
		看護演習Ⅶ	
	成人看護学	成人看護学概論Ⅰ	
		成人看護方法論Ⅰ	
		成人看護方法論Ⅱ	
		成人看護方法論Ⅲ	
		成人看護方法論Ⅳ	
		成人老年看護学実習	
		看護演習Ⅳ・Ⅴ	
	老年看護学	老年看護学概論Ⅰ	
		老年看護方法論Ⅰ	
		老年看護方法論Ⅱ	
		老年看護方法論Ⅲ	
		成人老年看護学実習	
		看護演習Ⅵ	
	母性看護学	母性看護学概論Ⅰ	
		母性看護方法論Ⅰ	
		母性看護方法論Ⅱ	
		母性看護方法論Ⅲ	
		母性看護学実習	
		看護演習Ⅷ	
	地域・在宅看護論	臨地実習：地域・在宅看護論実習	在宅療養支援、地域包括支援
		臨地実習：地域看護学実習	地域(コミュニティ)・行政・学校保健・産業保健、地域での看護の実際
		看護演習Ⅲ	看護技術演習、看護リフレクション
		地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	家族援助、在宅療養に必要な技術、看護展開
		在宅看護概論	概念、機能と役割、対象、活動の場、活動方法
		地域看護学	地域(コミュニティ)・生活の理解
	基礎看護学	臨地実習：基礎看護学Ⅰ実習	対象理解
		臨地実習：基礎看護学Ⅱ実習	日常生活援助
		看護演習Ⅰ・Ⅱ	看護技術演習、看護リフレクション
		臨床援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	看護技術（与薬、検査・治療、経過別・症状別、看護過程）
		基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	看護技術（環境、活動、清潔、食事、排泄）
		基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	看護技術（コミュニケーション、バイタルサイン、感染、記録、フィジカルアセスメント）
		基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ	概念、歴史、看護倫理、看護理論
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度		看護と法律、公衆衛生学、社会福祉・社会保障論、保健指導論 保健統計
	疾病の成り立ちと回復の促進		感染防御学、病理学、臨床薬理学 疾病治療学Ⅰ～Ⅴ、リハビリテーション論
	人体の構造と機能		人体の構造学Ⅰ～Ⅲ、人体の機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床生化学、臨床栄養学
基礎分野	人間と生活・社会の理解		倫理学Ⅰ・Ⅱ、法学概論、家族社会学、英語コミュニケーション コミュニケーショントレーニングⅠ～Ⅲ、人間理解の基礎
	科学的思考の基盤		教育心理学、教育学(教育原理・教育方法論)、論理的思考の基礎、 看護物理学、情報モラル、情報科学概論、コンピュータ情報処理演習

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
教育心理学	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	大久保 智生(非常勤) (実務経験有)

［授業の目的・ねらい］
人格形成および発達に果たす教育の役割を理解し自他ともにその関わり方に教育的配慮ができる力を養う。コミュニケーションの基礎となる人間関係論を学ぶ。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］
1.心理学の基礎的な位置づけを理解し説明 できる。
2.生涯発達する人間の行動や心理のメカニズムについて理解しその関わり方に教育的配慮ができる。
3.生活者としての対象が抱えるさまざまな問題について理解し、コミュニケーションの基礎となる人間関係論を学ぶ。

【実務経験】大久保智生：大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。
学生が学びやすい事例等を活用するとともに教授方法を工夫する。

【準備学習】
前回の授業内容を復習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	オリエンテーション	授業の進め方について	
2	心理学とは	行動の科学としての心理学について	・科学、行動
3	記憶	記憶のメカニズムについて	・感覚記憶、短期記憶、長期記憶
4	知覚	外界の情報の受け取り方について	・知覚、感覚、刺激域
5	学習	持続的な行動の変容について	・条件づけ、モデリング
6	動機付け	人の行動の原因について	
7	発達	生涯発達について	・親子関係
8	パーソナリティ	人の性格とその理解の仕方について	・持性論、相互作用論
9	対人関係	他者との関係が行動に及ぼす影響について	・援助行動
10	ストレスと適応	ストレスへの対処の仕方について	・適応、コーピング
11	犯罪・非行	少年犯罪の凶悪化のウソについて	・少年犯罪の凶悪化
12	虐待	虐待について	・虐待、世代間連鎖
13	学力低下	学力低下と階層について	・階層、成績、学習意欲
14	メディアの影響	メディアの報道が作り出す言説について	・言説、メディア
15	まとめ	これまでの授業のまとめ	
	試験	上記終了後前期末試験	

［使用テキスト］
・大久保智生著：実践をふりかえるための教育心理学
ナカニシヤ出版

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
科目終了時の最終試験の評価：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
教育学 （教育原理・教育方法論）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	竹内　正典（非常勤） 実務経験有

［授業の目的・ねらい］

看護師を目指すあなたが、なぜ「教育（原理）」について学ばなければならないのでしょうか。それは、看護師としてのあなたにとってだけでなく、例えば、指導者としてのあなたや親としてのあなた、納税者としてのあなた・・・にとって、「教育」が非常に身近な問題だからです。そして、なぜ「教育（方法論）」について学ばなければならないのでしょうか。それは、看護師としてのあなたにとってだけでなく、例えば、指導者としてのあなたや親としてのあなた、納税者としてのあなた・・・にとって、「教育」が非常に身近な問題だからです。この授業では、教育の基本的な事項と教育方法としてのアクティブ・ラーニングを通して、教育方法について具体的に考えます。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］

①授業中に与えられた課題について、自分の意見を他者にわかるように表現することができる。

②授業で取り上げたテーマのそれぞれについて、重要だと思ったこと等を、自分の経験等も交えながら、他者にわかるように表現することができる。

③与えられた最終課題について分析した内容を、他者にわかるようにプレゼンすることができる。

【実務経験】竹内正典　：大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。
学生が主体的に学べるよう、教育方法を工夫し授業を展開する。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	イントロダクション	授業の目的・ねらい等について	「教育」について学ぶ意味
2	「教育」とは何か？①	「教育」の重要性について	「教育」を受けなかったらどうなるか？
3	「教育」とは何か？②	「教育」の定義について	他者に対してなされる行為 意図的に組織化する 教育には限界がある
4	教育の可能性と限界①	遺伝と環境の影響について	遺伝か？環境か？ 教育は要るのか？要らないのか？
5	教育の可能性と限界②	教育の可能性について	DNA操作で教育はどう変わるか？
6	「社会化」とは何か？①	「社会化」について	内容に着目した分類 意図に着目した分類 方法に着目した分類
7	「社会化」とは何か？②	通過儀礼について	通過儀礼の構造はどのようなものか？
8	教育の現場を知る①	教育の現場について（教員主導型学習）	教育の質保証
9	教育の現場を知る②	教育の現場について（学生主導型学習）	アクティブ・ラーニング 協同学習（ジグソー）
10	グループワークのイントロダクション	「チーム」で働くためのコミュニケーションについて	目的を共有化すること 最初にしっかりと計画を立てること等
11	プレゼン準備①	プレゼン内容の方向性の検討について	
12	プレゼン準備②	プレゼン内容の詳細の検討について （進捗状況の報告を含む）	
13	プレゼン準備③	プレゼン内容の詳細の検討について	
14	プレゼン準備④	プレゼン媒体等の準備について	
15	プレゼン・まとめ	プレゼンと最後のまとめ	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
テキストは使用しません。	1）ワークシート　50％（達成課題①に対応） 2）レポート　50％（達成課題②に対応）

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
論理的思考の基礎	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10 回	1単位（ 20時間）	必須	（非常勤）

［授業の目的・ねらい］
論理的思考の基礎を身につけ、読む・書く・聞く・話す能力を養う。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. 物事に対し、論理的に考え、理解することができる。
2. 自分の意見を論理的に小論文で書くことができる。
3.自分の考えを相手や目的に応じて、効果的に伝えることができる。
4.話し手の考えを的確に理解し、自分の考えを持つことができる。

【実務経験】　:学生が自己の考えを文章構成のもと表現できるよう、演習をとり入れ授業を展開する。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	論理的思考の必要性と重要性	論理的思考の定義 論理的思考の重要性	論理的に伝える必要性 作文・論文との相違点
2	論理的思考の基礎	論理的思考の要素	思考力の要素 （抽象化、対比関係、因果関係） 接続詞（順接、逆説、対比等）
3	論理的な文章Ⅰ	論理的文章の基礎	段落、文章構成構成メモ （三部構成、四部構成） 4行作文
4	論理的な文章Ⅱ	文章構成の基礎1	序論・本論・結論 段落の展開の方法
5	論理的な文章Ⅲ	文章構成の基礎2	4部構成の論文の基礎 （因果関係、意見提示、展開、結論）
6	論理的な文章Ⅳ	確認テスト	＊評価の対象
7	小論文を書くⅠ	文章構成を考える	構成メモの作成 序論・本論・結論の明確化 原稿用紙の使い方
8	小論文を書くⅡ	序論・本論・結論を書く	序論、本論、結論の明確化
	小論文を書くⅢ	序論・本論・結論を書く	本論の内容
	小論文を書くⅣ	序論・本論・結論を書く	内容・表現の見直し
9	小論文を書くⅤ	序論・本論・結論を書く	説得力のある文章 原稿用紙の正しい使いかた
	小論文を書くⅥ	推敲し、清書する	＊評価の対象
10	スピーチⅠ スピーチⅡ スピーチⅢ	スピーチの基本 スピーチの工夫をする スピーチをする・聞く	話す・聞く能力 効果的な話し方 （声量・聞く・目線等）
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・「看護学生のためのレポート・論文の書き方」高谷修（金芳堂）
・「看護医療系の小論文」石関直子（学研教育出版）
・「よくわかる看護師試験のための論作文術」土屋書店編集部（土屋書店）
・「本当の国語力が驚くほど伸びる本」福嶋隆史（大和出版）
・「小論文これだけ！」樋口裕一（東洋経済新報社）

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1）論理的に読むテスト：40%
2）小論文を書く：40%
3）スピーチ：20%

＊学習態度を考慮する

授業進度計画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
情報モラル	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（15時間）	必須	林 敏浩（非常勤） 実務経験有

［授業の目的・ねらい］
情報の収集・精査や発信、医療や福祉を学ぶものとしての個人情報の取り扱いや情報セキュリティについて学び、情報社会の中で適正な活動を行うための基礎となる考え方と態度と、日々変化していく情報技術に対応できる学習能力を身につけることができる。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1.情報社会に参画するための態度と姿勢について説明できる。
2.情報化社会におけるIT（情報技術）の変化に対応できるための情報活用技術とインターネットの基本が説明できる。
3.情報技術の発展に応じた情報の入手方法と利用方法について説明できる。
4.倫理観を持って情報を取り扱うことができる。

【実務経験】林 敏浩：大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。
学生が主体的に学べるよう、教育方法を工夫し授業を展開する。

【準備学習】
前回の授業内容を復習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	情報化社会における問題について	1）ネット依存 2）ネット被害 3）SNS等のトラブル 4）情報セキュリティ	・自他、社会への影響を考える ・情報社会での行動に責任を持つ ・情報を正しく安全に活用できる ・健康とのかかわりについても考える
2		5）情報社会における情報の特性 (1)情報量と情報の速さ (2)情報の複製の容易さ (3)情報の可塑性 (4)情報の双方向性	・情報漏洩　・社会的影響力 ・情報の複製、取消ができない ・不適切なサイトに掲載 ・誰でも受け入れ、発信できる
3 4 5	情報活用能力とは	1）情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人的な基礎的な能力 (1)情報活用の実践力 (2)情報の科学的な理解 (3)情報社会に参画する態度	ネットワーク上のルール、マナーを守る意味 情報には自他の権利があることを考える
6	各場面での情報モラル	情報の収集・判断・処理・発信	情報を活用する各場面での情報モラルについて考察
7	情報技術とインターネットの基本	1）インターネットの仕組み 2）セキュリティとコンピュータウイルス 3）スマートフォン、タブレット等の安全対策	インターネットの利点と欠点 パスワード、SNS
8	まとめ	情報を倫理観を持って取り扱う そのために必要な判断力と心構えについて	よりよいコミュニケーションと人と人との関係づくりのための情報活用

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
テキストは使用しません。	1）レポート100%　出席状況も含む

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
情報科学概論	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	田井　麻友美（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
コンピュータとネットワークはさまざまな場面で必要不可欠なものになってきている。医療や看護分野における情報化に対応するため、コンピュータとネットワークの基本概念と原理ついて学び、情報科学の基礎的な知識と技能を習得する。
情報活用の理論を学び、情報社会への対応および看護に応用できる能力を身につける。
情報と医療の関わりについて学ぶ。医療・患者情報に関する倫理と情報セキュリティについて学ぶ。
次々と出てくる新しいモノやサービスを取捨選択し、これらに振り回されずに活用する感覚と能力（情報活用能力：メディアリテラシー）を身につける。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. 医療現場などに利用される電子カルテやオーダーリングシステムなどの特徴を説明できる。
2. 情報モラルを身につけ、日常生活において、SNSなどのインターネット利用を適切に対処できる。
3. iPadのアップデートを自ら行うことができる。アプリからAirPrintを利用してレポートなどを出力することができる。

【実務経験】田井麻友美：PCインストラクターとして豊富な経験（学校での教授含む）を有し、情報処理・管理・モラルに精通し教授活動を実践している。知識・技術ならびに情報管理について主体的に学べるよう授業を展開する。

【準備学習】
前回の授業内容を復習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	コンピュータの歴史	1)情報科学を何故学ぶか 2)コンピュータの歴史 3)情報の基礎 4)フローチャート作成支援	情報・データ・ハードウェア・ソフトウェア 中央処理装置・主記憶装置 真空管・トランジスタ・集積回路（IC） マイクロプロセッサ（LSI）
2	コンピュータシステムの構成	1)コンピュータシステムの構成要素 2)コンピュータの概要	AppStor・DropBox iPadからの出力方法 文書作成アプリ　Writer
3	情報と看護	1)医療現場におけるコンピュータの利用 2)病院システム 3)医療の情報化	表計算アプリ　Spreadsheet
4	情報モラル	1)ソーシャルメディアの定義 2)ルール・マナーの遵守 3)法律を守る責任 4)セキュリティ	コンピュータ実習室の利用の方法 学生用サーバー・プリントアウトについて DropBox
5	コンピューターとネットワーク	1)インターネットでできること 2)クラウドサービス 3)ネットワークのしくみ	オーダーシステム・電子カルテシステム
6	iPadにて文書作成	1)ビジネス文書の作成 2)表のあるビジネス文書	
7	iPadにて表計算	1)四則計算 2)関数 3)グラフ	
8	学生用サーバー	PC実習室の学生用サーバーの設定 PCでのDropBoxログイン	
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
プリント	1）科目終了時の最終試験の評価　：60% 2）提出物　30%　　3）出席10%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
倫理学Ⅰ	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習　・実習
授業の回数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（　15 時間）	必須	佐藤　慶太(非常勤) (実務経験有)

［授業の目的・ねらい］
倫理学上の主要な学説を理解し，医療従事者としてみにつけるべき倫理規範を学ぶ。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］
1.倫理学における主要学説について、説明することができる。
2.医療従事者として身につけるべき倫理規範について説明することができる。
3.倫理学的な問題を話し合うにあたり、自分の考えをほかの人にわかりやすく伝えることができる。
4. 倫理学的な問題を話し合うにあたり、自分の考えの根拠を的確に示すことができる。

【実務経験】佐藤慶太：大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動を行っている。
学生の倫理観を醸成できるよう教育方法を工夫し授業を展開する。

【準備学習】
前回の授業内容を復習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	倫理学とは何か	オリエンテーション 「倫理学」はどのような学問か	「倫理学」の基本的な意味をつかむ 意見をグループ内で発表する練習をする
2	倫理学と文化的相違	倫理的規範は文化ごとに異なるのかどうか 医療の現場では、どんなルールが必要か	倫理的規範と文化の関係について学ぶ 医療倫理の四原則を学ぶ
3	科学の発達と倫理学	科学の進歩はどのような問題を引き起こすか	科学の進歩がひきおこす問題を、「出生前診断」の事例に基づいて学ぶ
4	功利主義	善悪の基準は動機か、結果か 多数決にはどんな問題が潜んでいるか	功利主義の基本的な枠組を理解する 功利主義に含まれる問題について理解する
5	義務論	結果に基づいた善悪の判断にどんな問題があるか 代理出産にはどのような問題があるか	義務論の基本的な枠組を理解する 「代理出産」の問題について考える
6	正義論	「平等」はどこまで実現されるべきか	正義論の基本的な枠組を理解する 能力主義と平等主義の対立について考える
7	徳倫理学	「思いやり」は倫理を考える上で必要か	「愛」や「友情」が倫理学でどのように扱われるか、事例に即して学ぶ
8	まとめ	これまでに学んだことを振り返る	これまでに学んだ内容を頭の中で整理する
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
教科書は使用しません。 毎回プリントを配布します。	1)科目終了時の最終試験の評価：60% 2)授業中の活動(グループワークなど)の評価：40%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
法学概論 （行政活動を中心に）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	辻上 佳輝(非常勤) (実務経験有)

［授業の目的・ねらい］

将来医療関係の職に就く人たちにとって、法律はとても馴染みが薄いものでしょう。しかし、近年の医療事故の増加などで分かるように、医療看護の世界にも法的な考え方は必須といえる。本講義では、まず法律の基本的な知識を学び、その後医療過誤判例を読むことで、将来必要とされる法律に関する知識の最低限を身につけることを目的とする。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］

1　基本的な法律語彙を理解し、おおむね使えるようになる

2　代表的な医療過誤を理解し、法的な思考法になじむ

【実務経験】辻上佳輝：大学にて本科目に関する内容に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
法律に関する基礎的知識ならびに看護に関する法令を判例等を用いて学べるよう授業を展開する。

【準備学習】

前回の授業内容を復習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	ガイダンス・法学の基礎①	条文と基本発想	各授業において、適宜伝えます。
2	法学の基礎②	条文と解釈・法律用語	
3	民法の基礎①	契約	
4	民法の基礎②	不法行為	
5	医事法学①	医療者の資格	
6	医事法学②	診療契約・応召義務	
7	医事法学③	医療水準論	
8	医事法学④	説明義務・転移勧告義務	
	試験	上記終了後、期末試験（課題レポート）	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・適宜資料を配布	1)科目終了時の最終試験・課題レポート:100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
家族社会学	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	日高　幸亮(非常勤) (実務経験有)

［授業の目的・ねらい］

本科目は現代社会における家族の特性、および役割について学ぶとともに、現代家族の抱える問題について知り、その対策について主体的に考えることを目的としている。家族の多様性について理解することは、看護職として仕事をする上で重要である。授業は、講義だけでなく、「グループ学習」「グループ討議」により展開する。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］

1. わが国における「家族」の時代的変化について説明できる。
2. 現在社会の家族をめぐる諸問題について理解し、その対策を説明できる。
3. 医療における家族支援のあり方について、自分なりの視点を持つことができる。

【実務経験】日高幸亮：臨床心理士、スクールカウンセラーの経験等にて本科目に精通している。
基礎的知識の習得ができるよう演習を用いて授業を展開する。

【準備学習】

前回の授業内容を復習して授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	ガイダンス 「家族」とは	1)家族社会学の学習内容と進め方 2)家族の定義	家族について学ぶことの意義について理解する
2	家族の歴史的変化	1)家族の近代化 2)家族の多様化	「家族」の歴史的変遷を学習し、多様化した家族のあり方について理解する
3	結婚	1)配偶者選択と結婚 2)多様化する結婚のかたち	結婚に対する価値観の多様化と未婚率の増加について理解する
4	夫婦関係	1)夫婦の役割 2)夫婦の個別化	性的役割分業という意識の変遷について知り、今後の夫婦関係のあり方について考える
5	親子関係	1)子育て 2)3歳児神話	女性のライフコースの変化と出産・子育てとの関連について考える
6	高齢者と家族	1)高齢者と家族との関係 2)高齢者介護	高齢化社会の中で、高齢者のおかれた状況と家族関係について学ぶ
7	家族が抱える問題と支援	1)離婚と家族 2)DV、ひきこもり	現代家族が抱える問題とその支援対策について学ぶ
8	医療における家族支援	1)ジェノグラムの書き方 2)家族教室、家族支援	家族関係が多様化する中で、看護職としてどのような家族支援が必要か検討する

［使用テキスト］

特になし

［参考図書］

適宜提示する

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)

1)最終試験評価：60%
2)毎時の小レポートと小テスト：40%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科/学年	年度	授業形態
英語コミュニケーション	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	ティム・マティソン（非常勤） 実務経験有

［授業の目的・ねらい］
読解力と語学力の基礎を身につけ、国際化への関心をもつ。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1.自分の意思を英語で伝えられる。
2.初級レベルの医学関係の英単語・表現が分かる。

【実務経験】ティム・マティソン：実務経験有
初級レベルの日常英語や医学英語を理解できるよう、学生の興味を引き出せる授業を工夫する
【準備学習】前回の授業の復習をして授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	A. 一般英会話	自分の意思、好みを伝える	・自己表現：受け取る、断る、選択する
	B. 基本的発音練習	子音①	・「L」と「R」の正しい発音の仕方
2	A. 一般英会話	入国手続き	・入国審査官の質問と答え方
	B. 基本的発音練習	子音②	・「F」、「V」、「B」、「P」の正しい発音の仕方
3	A. 一般英会話	ホテルの予約	・部屋の有無、宿泊費の尋ね方など
	B. 基本的発音練習	子音③	・「S」、「SH」、「TH」の正しい発音の仕方
4	A. 一般英会話	道案内	・道順を尋ね、理解する
	B. 基本的発音練習	母音①	・「A」、「E」、「O」の正しい発音の仕方
5	A. 一般英会話	許可を求める ― 言葉遣い	・やるべきこととやってはいけないことの尋ね方
	B. 基本的発音練習	母音②	・「O」、「EE」、「AR・ER」の正しい発音の仕方
6	A. 一般英会話	海外で病気になったら	・病名、身体の各部分の名称、状態の説明の仕方
	B. 医療英会話	患者に尋ねる①	・個人情報、身体の状態についての尋ね方
7	A. 一般英会話	約束を作る	・招待のし方、受ける・断る方法、予定の変更の仕方
	B. 医療英会話	患者に尋ねる②	・病歴、家族についての尋ね方
8	A. 一般英会話	食事を注文する	・料理の説明を求める、注文する方法
	B. 医療英会話	病歴について尋ねる	・病歴、特に重病についての尋ね方
9	A. 一般英会話	自己紹介	・自分や家族に関する質問の答え方
	B. 医療英会話	睡眠について	・睡眠の習慣についての尋ね方
10	A. 一般英会話	一日のスケジュールを確認する	・予定の説明のし方と、変えた場合の謝り方
	B. 医療英会話	食生活	・食生活についての尋ね方
11	A. 一般英会話	買い物	・服などの値段、支払い方法についての尋ね方
	B. 医療英会話	健康と生活習慣	・日々の生活についての尋ね方
12	A. 一般英会話	郵便局のサービスを利用する	・切手の買い方、小包発送の依頼の仕方
	B. 医療英会話	痛みについて尋ねる	・痛みについての詳しい尋ね方、説明の仕方
13	A. 一般英会話	落し物	・忘れ物の特徴の説明の仕方
	B. 医療英会話	インフルエンザの症候	・インフルエンザに伴う病気についての尋ね方
14	A. 一般英会話	お別れの言葉 ― お礼を言う	・別れの挨拶の仕方
	B. 医療英会話	健康診断	・各検査名とそれに関わる単語を覚える
15	まとめ		
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・クリスティーンのやさしい看護英会話.医学書院
・T.マティソン.「Medical English Series」
・必要資料はプリントで配布

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1）科目終了時の最終試験の評価：90%
2）授業参加状況（遅刻・早退も含む）：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション トレーニングⅠ	看護学科/1年次	令和6年度	講義　・演習　・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	副島慶子（非常勤） 実務経験有

［授業の目的・ねらい］
日常生活や、看護の現場で必要不可欠なコミュニケーションについて学ぶ。
聴く、話すなどの個人スキルだけでなくチームワークを展開するための相補的かつ包括的なコミュニケーションについて、数々の実践ワークを通じて、身をもって理解する。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. 学生生活や看護の現場でのコミュニケーションの意義を理解する。
2. コミュニケーションに大事な共感、受容、傾聴、そして表現のスキルを習得する。
3. チーム内でのコミュニケーションの重要性を認識し、そのための行動を取ることができる。
4. 以上のことを、学生生活や看護師としての活動に活かそうと、心がけるようになる。

【実務経験】副島慶子：大学などで、コミュニケーション講座の担当経験をもとに、学生に社会人として必要なコミュニケーションスキルを教授する。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	序論	コミュニケーションとは？	
2	観察すること	見ているようで見ていない自分を知る	・未熟さを認めること
3		見る意識を持つ	・氣づくこと
4	個人の尊重	人の「違い」を理解する	・「あるがまま」の感覚
5		他者を受け入れる	・正直さ　・柔軟性
6	聴くこと	カラダ全体で聴く	・そこにいること
7		より多くの情報を聴く	・「心ある」聴きかた
8		自分を見つめる	・ひらめき
9	想像力	想いを「視覚化」する	・具体化すること
10		他者の状況や物事の流れを予測する	・わかろうとすること
11		これからを考える	・イメージの整理
12	信頼関係	信頼とは何か？	・状況を楽しむ　・安心感
13		チームワーク	・相手を感じる　・自分を信じる
14		抱える環境づくり	・リーダーシップ・チア＆プッシュ
15	まとめ	ディスカッション	・成長を感じること

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
テキストなし	1）授業評価　　:70% 2）授業毎と最後のレポート評価：30%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
人体の構造学Ⅰ	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30時間）	必須	太田 健一（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。

看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1. 人体の構造を医療に携わる共通言語である解剖用語を用いて説明できる。
2. 人体の諸器官の形態を肉眼解剖学の知識を用いて説明できる。
3. 人体の構造と器官の位置を系統的に学び、病理学、疾病治療学の基礎とする。

【実務経験】太田健一：大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が人体の構造について知識習得できるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める

回	単元	内容	学習のポイント
1	人体の基本単位 細胞・組織・器官	1)細胞と細胞膜の構造 2)組織の構造	平行して開講している「人体の機能学」と関連づけて学習すること。また看護実践に必要な人体の構造・機能や疾病との係わり合いの中で、生化学、病理学を含めた総合的な学習を心がけること。
2	人体の構造	1)人体の特徴 2)人体の形成，人体の体位と区分	
3	体の支持と運動 骨格系	1)骨の連結 関節の構造	・細胞の構成要素
4	〃	2)体幹の骨格 頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤	・上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織 ・人体の部位の名称、身体の方向と位置
5	〃	3)上肢の骨格	・骨の構造と結合　・頭蓋・脊柱の構成 ・上肢を構成する骨と関節
6	〃	4)下肢の骨格	・下肢を構成する骨と関節
7	筋系	1)骨格筋の構造 体幹の筋肉、上肢の筋	・関節の運動と筋肉の起始停止 ・上肢の屈筋と伸筋
8	〃	2)下肢の筋	・下肢の屈筋と伸筋 ※解剖見学実習も含む
9	呼吸器の構造	1)鼻腔、副鼻腔	・鼻腔および副鼻腔の構造
10	〃	2)咽頭、気管、気管支	・咽頭・喉頭の構造 ・気管・肺の形状、構造、位置
11	〃	3)肺、胸膜、縦隔	・胸膜の構造・縦隔の位置
12	循環器系の構造	1)循環器系の構造 2)心臓の構造	・心臓の構造、刺激伝導系、心臓の弁 心臓の血管
13	〃	3)血管の構造、肺循環 4)全身の動脈	・動脈、静脈、毛細血管 ・大動脈弓、胸・腹部大動脈・大脳動脈輪
14	〃	5)全身の静脈	・上・下大静脈、頭頸部の静脈、 上・下肢の静脈、門脈系
15	〃	6)リンパ系 7)胎児循環	・リンパ管の構造・分布とリンパ液の流れ ・胎児の血液循環、静脈管、動脈管
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］

・ナーシンググラフィカ　解剖生理学　、メディカ出版

［参考図書］

・加藤尚武：現代倫理学入門、講談社

※解剖見学に向けて倫理的態度を養います。

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1)科目終了時の最終試験の評価：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
人体の構造学Ⅱ	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（　30時間）	必須	太田　健一（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。

看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.人体の構造を医療に携わる共通言語である解剖用語を用いて説明できる。
2.人体の諸器官の形態を肉眼解剖学の知識を用いて説明できる。
3.人体の構造と器官の位置を系統的に学び、病理学、疾病治療学の基礎とする。

【実務経験】太田健一：大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が人体の構造について知識習得できるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	栄養の消化と吸収 消化器系	1)消化器の構造、口腔、咽頭、食道	平行して開講している「人体の機能学」と関連づけて学習すること。また看護実践に必要な人体の構造・機能や疾病との係わり合いの中で、生化学、病理学を含めた総合的な学習を心がけること。 ・消化器の形状、構造、位置
2	〃	2)胃、小腸、大腸	
3	〃	3)肝臓、膵臓、腹膜	
4	体液の調節と尿の生成 泌尿器系	1)腎臓	・腎臓、尿管、膀胱、尿道の形状、構成、位置
5	〃	2)尿管、膀胱、尿道	
6	情報の受容と処理 中枢神経系	1)神経細胞と支持細胞 2)脊髄、脳①	・ニューロンとシナプス ・脳の形状と構造
7	〃	3)脳②	・大脳皮質の機能領域、脊髄の構造 ・下行性伝導路（錐体路、錐体外路）
8	〃	4)伝導路	・脳神経の名称と神経支配 【レポート】
9	〃	1)脳脊髄神経と脳神経①	「脳神経の走行と神経支配」
10	〃	2)脳脊髄神経と脳神経② 自律神経	・交感神経、副交感神経
11	感覚器系	1)視覚器,平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	・内耳、中耳の構造 ・眼球の構造と眼筋
12	〃	2)味覚器 3)皮膚の構造、血管、神経	・舌の構造 ・皮膚の構造
13	生殖器系	1)男性生殖器	・精巣、精路、前立腺
14	〃	2)女性生殖器	・卵管、子宮、骨盤腔の構造
15	発生	受精と胎児の発生	・受精、胎児と胎盤
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・ナーシンググラフィカ　解剖生理学　、メディカ出版	1)科目終了時の最終試験の評価：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
人体の機能学Ⅰ	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	太田 健一（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。

看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.人体の諸器官の機能を医療に携わる共通用語である解剖用語を用いて説明できる。
2.人体の生命活動を解剖学、機能学の知識をもち説明できる。
3.対象の健康・疾病・障害について看護判断の根拠として説明できる。

【実務経験】太田健一：大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が人体の機能について知識習得ができるよう授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	機能から見た人体	1)生命体維持システム 2)運動・調節システム	・人体の構造学と関連付けて学習する
2	〃	3)体液とホメオシタシス	・内部環境と外部環境
3	血液のはたらき	1)血液の組成と機能 2)赤血球	・血漿　血清　血餅 ・ヘモグロビン　エリスロポエチン
4	〃	3)白血球　　血小板 4)血漿タンパク質	・顆粒球　リンパ球　単球 ・免疫グロブリン
5	〃	5)血液凝固と線維素溶解 6)血液型	・出血時間　凝固時間 ・輸血　HLA
6	体の支持と運動	1)筋の収縮	※解剖見学実習も含む
7	内臓機能の調節	1)内分泌系による調節 2)内分泌腺と内分泌細胞	・ホルモン
8	〃	3)視床下部-下垂体 4)甲状腺と副甲状腺	
9	〃	5)膵臓 6)副腎　性腺	
10	〃	7)ホルモンによる調節の実際	・糖代謝　カルシウム代謝
11	呼吸のはたらき	1)内呼吸と外呼吸 2)呼吸器と呼吸運動	・気道・肺胞の機能 ・呼吸のメカニズム
12	〃	3)呼吸気量 4)ガス交換とガスの運搬	・肺活量
13	〃	5)肺の循環と血流 6)呼吸運動の調節 7)呼吸器系の病態生理	・肺循環 ・換気障害　拡散障害
14	血液の循環とその調節	1)心臓の拍出機能 2)心臓の興奮とその伝播	・興奮の伝播
15	〃	3)心電図 4)心臓の収縮	・心電図の導出 ・心拍出量
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・ナーシンググラフィカ　解剖生理学、メディカ出版	1)科目終了時の最終試験の評価：100%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
人体の機能学Ⅱ	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	太田 健一（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。

看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.人体の諸器官の機能を解剖用語を用いて説明できる。
2.人体の生命活動を構造学、機能学の知識を持ち説明できる。
3.対象の健康・疾病・障害について看護判断の根拠として説明できる。

【実務経験】太田健一：大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が人体の機能について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	血液循環の調節	1)血圧　血液の循環 2)血圧・血流量の調節	・人体の構造学と関連づけて学習する ・血圧の調節機構
2	〃	3)微小循環　循環系の病態生理 4)リンパとリンパ管	・血管収縮物質　血管拡張物質 ・胸管　右リンパ本幹　乳び槽
3	栄養の消化と吸収	1)上部消化管の機能	・嚥下の過程
4	〃	2)腹部消化管の機能 3)膵臓・肝臓・胆嚢の機能	
5	体液の調節と尿の生成	1)腎臓の機能 糸球体と尿細管の機能	・尿生成のメカニズム ・近位尿細管　遠位尿細管　集合管
6	〃	2)クリアランスと糸球体濾過量 3)腎臓から分泌される生理活性物質	・排尿の機序 ・レニン　アンギオテンシン　アルドステロン
7	〃	4)体液の調節	・水の出納　脱水　酸塩基平衡 ・アシドーシスとアルカローシス
8	内臓機能の調節	1)自律神経の機能	
9	情報の受容と処理	1)神経系の機能　脊髄と脳 2)脊髄神経と脳神経	・ニューロン ・脊髄反射
10	〃	3)脳の高次機能 4)視覚・聴覚・平衡覚	・脳波と睡眠　記憶 ・脳幹・小脳・間脳の機能
11	〃	5)味覚と嗅覚　疼痛	・大脳の機能　体性運動野　視覚野 運動性言語野　感覚性言語野
12	外部環境からの防御	1)生体の防御機構 非特異的防御機構	
13	〃	2)免疫	・サイトカイン　マクロファージ　好中球 ・B細胞　T細胞　免疫グロブリン
14	〃	1)体温とその調節	・熱の産生と放散 ・体温調節中枢　発熱
15	生殖・発生と老化のしくみ	1)成長と老化	・生殖機能
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・ナーシンググラフィカ　解剖生理学　、メディカ出版	1)科目終了時の最終試験の評価：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床生化学	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
10回	1 単位（20 時間）	必須	吉田 裕美（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
ヒトの生命現象および病態は、遺伝子情報や生体内物質の変化と密接にかかわっている。生命の維持のために必要な生体内で起こる反応を理解できるよう、遺伝子情報や生体内物質の変化を説明する生化学の基礎知識を修得することをねらいとする。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. 人体を構成・維持する物質について説明できる。
2. 人体の生命活動を維持・調節する代謝について説明できる。
3. 人体の生命現象の基盤である遺伝子情報について説明できる。
4. 臨床的に重要な酵素や生体に必須である物質について、生理的意義、病態との関連を説明できる。

【実務経験】吉田裕美：大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が生化学について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】
授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題にて学習を深める

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	巻末資料	生化学を学ぶために知っておきたい化学の基礎知識	化学の基礎知識
	生命の維持に必要な栄養素の構造と性質	1)細胞 細胞の構造と機能	生体を構成する各物質の構造、性質 ・細胞や細胞膜の構造と機能
2		2)糖質 糖質の種類　糖質の構造と性質	・糖質の構造と性質
		3)脂質 脂質の種類と役割	・脂質の種類・構造と性質
3		4)アミノ酸とタンパク質 タンパク質の構造と分類	・タンパク質の構造、分類、役割
		5)核酸とヌクレオチド 塩基　DNAとRNAの構造	・核酸の構造
		6)ビタミン ビタミンの種類と生理作用	・ビタミンの機能
4	酵素	酵素 酵素の役割と性質　酵素反応とその阻害	・酵素の機能と特徴
	代謝総論	代謝とは 代謝とその制御	生体を構成する物質の代謝過程
5	さまざまな代謝	1)糖質代謝 糖質の消化と吸収　グルコースの主な代謝系 糖新生	・糖質代謝過程
6		2)脂質代謝 脂質の消化と吸収　脂肪酸の分解と生合成 ケトン体の生成、コレステロールの生合成	・脂質代謝過程
7		3)タンパク質とアミノ酸の代謝 タンパク質の消化と吸収　アミノ酸の利用、合成	・タンパク質（アミノ酸）代謝過程
8		4)核酸・ヌクレオチドの代謝 ヌクレオチドの合成と分解	・ヌクレオチドの合成・分解
9	エネルギー代謝の統合と制御	1)臓器間の代謝のつながり 2)代謝異常と疾患	・エネルギー代謝の制御
10	遺伝情報	1)遺伝情報の複製、転写、翻訳 2)遺伝子の変化、遺伝子診断・遺伝子治療	
	先天性代謝異常	先天性代謝異常	・病気と遺伝子の関連

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・宮澤恵二 編：ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能②臨床生化学、メディカ出版	1)科目終了時の最終試験：100％

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
感染防御学	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	下河　誠司(非常勤) 南原由理子他(実務経験有)

［授業の目的・ねらい］

臨床で問題となる微生物の特徴及び感染症について学び、その治療と感染防御の知識を習得する。医療処置や治療に伴い発生する、医療関連感染の関連因子を公衆衛生学に関連付けて学び、安全と感染防御に基づいた看護技術が実践できることをねらいとする。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］

1. 感染症を引き起こす起因菌の特徴と疫学、診断、治療、予防法について記述できる。
2. 医療を施すことで発生する感染症の疫学と起因菌及びその診断、治療、予防法について記述できる。
3. 耐性菌の発生機序について理解し、その予防対策を記述できる。
4. 医療従事者の職業感染について理解し、予防策の実践ができる。

【実務経験】下河誠司:病院において感染管理認定看護師として実務にあたり精通している。
感染管理についての基礎的知識・技術を習得できるよう、症例を活用し授業を展開する。

【準備学習】

授業の復習、テキストによる予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	感染管理学	1)医療関連感染の予防と管理の歴史と変遷 2)人間の社会生活と感染症 【1～4,15南原】	・感染症の歴史と現代社会における感染症の課題について考えることができる ・感染症発症の三大要因
2	職業感染管理	1)職業感染管理とは 2)職業感染予防と管理 3)職業感染対策(結核・ウイルス・針刺し等	・針刺し事故　・菌交代制
3	感染防止対策	1)標準予防策(スタンダードプリコーション) 2)感染経路別予防策	・基本的な考え方 「清潔」「不潔」「汚染」
4	感染防止技術	1)感染予防策とアドヒアランス向上のための取り組み 医療器具関連感染予防策(洗浄、消毒、滅菌) 部門別感染予防 2)緊急事態時における感染予防対策	・血流感染,尿路感染,人工呼吸器関連肺炎など ・ﾊﾟﾝﾃﾞﾐｯｸや災害等の緊急事態時対応
5	病院・施設での感染管理	1)なぜ病院・施設で感染管理を必要とするのか 2)感染管理認定看護師の役割と機能 3)感染管理認定看護師の活動の実際 【特別講義】	・看護職を目指すものとして職業感染予防について日頃から意識できる ・感染管理指導と相談の実際
6	医療機関における感染防止対策	医療機関における感染防止対策の実際 ～感染管理認定看護師から～　【特別講義】	・施設での取り組みの実際
7	洗浄・消毒・滅菌	1)洗浄・消毒・滅菌の原理と実際 【7～14下河】	
8	法律による感染対策	1)感染症法、新型インフルエンザ等特別措置法	★理解度確認小テスト ・消毒滅菌、法律
9	〃	学校保健法、食品衛生法など	
10	細菌感染症	1)細菌の形態・構造と分類	
	〃	2)細菌の生活現象・遺伝・変異・病原性	
	〃	3)細菌感染症の検査・診断、治療と予防 4)主な病原細菌と疾患	
11	ウイルス感染症	1)ウイルスの病原性、検査・診断、治療と予防 2)主なウイルスと疾患	★理解度確認小テスト ・細菌、ウイルス感染症
12	真菌・寄生虫感染症	1)病原性、検査・診断、治療と疾患	
13	まとめ		★特別講義受講後のレポート作成 感染予防について看護職者としての自身の考えを述べる調べ学習とグループ学習
14	〃		
15	レポート作成	上記終了後　期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
藤本秀士編:わかる！身につく！病原体・感染・免疫	1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)グループワークと発表、修了試験あり

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1 単位（ 30時間）	必須	山川 けいこ（非常勤） （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
病気の起こるメカニズムおよび生体の形態学、組織学、機能的変化の特徴を学ぶ。健康を維持するための自然治癒力、ホメオスターシスの考えを基に病気に対する科学的な見方を学ぶ。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. 病気の起こるメカニズムおよび生体の形態学、組織学、機能的変化の特徴を述べることができる。
2. 健康を維持するための自然治癒力、ホメオスターシスの考えを基に病気に対する科学的な見方を述べることができる。

【実務経験】山川けいこ：大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が病理学について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】
授業の復習、予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	病理学総論	1）看護と病理学 2）病気の原因、細胞・組織の傷害と修復	・病理学とは、病理診断の実際 ・細胞の適応現象と細胞死
2	〃	3）循環障害	・血栓・塞栓・梗塞、うっ血とは
3	〃	4）炎症と免疫	・炎症の過程と分類 ・アレルギー、膠原病、移植免疫
4	〃	5）感染症	・感染症とは、宿主の防御機構 ・代表的な病原体と感染症
5	〃	6）代謝障害、先天異常と遺伝子異常	・各代謝障害の原因と特徴 ・先天異常の分類とその原因
6	〃	7）腫瘍	・腫瘍（良性・悪性）の定義と組織学的特徴 ・腫瘍の発生機序と発がんの原因
7	〃	8）老化と死 総論まとめ	・老化現象と死の定義
	試験	総論授業終了後、中間試験	
8	病理学各論	1）循環器系疾患	・心奇形と虚血性心疾患
9	〃	2）血液・造血器系疾患	・血球の成熟と疾患 ・リンパ節の構造と疾患
10	〃	3）呼吸器系疾患	・肺の炎症、換気障害と腫瘍性病変
11	〃	4）消化器系疾患	・食道、胃の炎症性疾患と腫瘍性病変 ・炎症性腸疾患、大腸癌
12	〃	〃	・ウイルス性肝炎と肝癌
13	〃	5）腎・泌尿器・生殖器系、乳腺疾患	・腎炎とネフローゼ症候群 ・前立腺癌、子宮癌、乳癌
14	〃	6）内分泌系、脳・神経・筋肉系疾患	・下垂体、甲状腺、副腎における疾患 ・脳の循環障害、代表的な神経・筋疾患
15	〃	7）骨・関節系、感覚器系疾患 各論まとめ	・骨折と代謝性骨疾患、骨腫瘍 ・主な関節疾患 ・眼・耳・皮膚における代表的な疾患
	試験	各論授業終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・系統看護学講座　疾病のなりたちと回復の促進1　病理学　医学書院	1）中間試験の評価：50% 2）科目終了時の期末試験の評価：50%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
疾病治療学Ⅰ （呼吸・循環・消化器）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・　実習
授業の回数（×90分）	**単位数（時間数）**	**必須・選択**	**授業担当者**
20回	1単位（ 40 時間）	必須	岡部昭延（非常勤）実務経験有 吉川　圭（非常勤）実務経験有 山川俊紀（非常勤）実務経験有 山下美紀/中西文香

［授業の目的・ねらい］

科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域（呼吸器・循環器、消化器）にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.患者の身体で起きている現象を説明できる。
2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。
3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。

【実務経験】岡部昭延：大学病院をはじめ医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。
学生が呼吸器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践する。
吉川圭：総合病院医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。
学生が循環器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践する。
山川俊紀：総合病院医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。
学生が消化器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	呼吸器疾患	1)呼吸器の構造と機能　【担当　岡部】	
2	〃	2)呼吸器疾患の症状	・呼吸困難、胸痛、チアノーゼ、
3	〃	3)呼吸器疾患の診断・治療	・呼吸の異常、
4	〃	4)呼吸器の主要疾患	・COPD,肺がん、肺炎、気管支喘息、
5	〃	5)呼吸器疾患　事例を通して学ぶ	・結核など
6	循環器疾患	1)循環器の構造と機能　【担当　吉川】	
7	〃	2)循環器疾患の症状	
8	〃	3)循環器疾患の検査・治療	
9	〃	4)循環器の主要な疾患について	・心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞
10	〃	5)循環器疾患の事例を通して学ぶ	・高血圧、弁膜症、
11	消化器疾患	1)消化器の構造と機能　【担当　山川】	
12	〃	2)消化器疾患の症状	
13	〃	3)消化器疾患の診断・治療	
14	〃	4)消化器の主要な疾患について	・食道がん、胃がん、大腸がん、
15	〃	5)消化器疾患の事例を通して学ぶ	・潰瘍性大腸炎、クローン病、 ・肝疾患(肝がん・肝硬変・肝炎)
16	演　習	1)解剖・生理・病態　【担当　山下,中西】	・主体的に授業や演習に参加する
17		2)治療・検査・看護を系統立てて学ぶ。	・学習の仕方を学び理解したことを
18		3)基本的なからだのしくみについての疑問を	わかりやすく説明できる
19		調べ理解する	・グループで協力してまとめる
20	グループワークと発表		
	試験	上記終了後、科目ごとに期末試験	

［使用テキスト］

田中　美智子他：健康の回復と看護　ナーシング・グラフィカ呼吸機能障害／循環機能障害、メディカ出版
明石　恵子　他：ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護②　栄養代謝障害

［参考図書］

・酒井建雄他編：系統看護学講座　専門基礎①
解剖生理学 医学書院

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1)授業時間数を鑑み総合的に評価する。
2)演習の評価はグループワークや発表会への参加状況も考慮
課題提出結果と自己評価も加味する

授業進度計画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎看護学概論Ⅰ （概念・歴史）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	奈良 育代 （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

本科目は、看護学の土台である基礎看護学に位置し、看護学において最初に学習する専門科目であり、看護学全体の基本的内容を含む。さらに、看護に関する過去（歴史）と現在および未来の見通しを捉え、看護学の本質を学ぶ科目である。また、看護学の豊かさや奥深さを実感し、看護学への関心が高まると同時に各専門領域の看護学への学習意欲が高められることをねらいとする。具体的には、歴史的に看護が果たして来た役割や機能、看護とは何か、看護の対象の理解、看護職と看護活動の場の理解等、看護学の基本となる共通した考え方、専門職としての役割と責任及び対象の理解と看護活動の概要を学ぶ。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1. 看護の対象と目的について説明できる。
2. 看護の機能・役割と看護活動の場について説明できる。
3. 看護の歴史的背景と現在の動向について説明できる。
4. 自分の目指す看護師像を自分の言葉で表現できる。

【実務経験】奈良：看護師として5年以上の実務経験
臨床における看護実践場面を教材として看護の本質を学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1 2	看護を考える	事例から必要な援助を考えてみよう みんなで考えてみよう	看護ってなにか
3 4	看護とは	1)看護の定義と役割 2)実践科学としての看護 3)看護における倫理の必要性	・看護の定義 ・エビデンス ・看護者の倫理綱領
5 6	看護の変遷 〃	1)看護の変遷 2)現代社会における看護のあり方 3)これからの看護の課題と展望	・近代以前の看護から現代の看護の変 ・ナイチンゲール ・看護に対する社会の要望
7 8 9	看護の対象 人間と環境	1)人間とは 2)統合体としての人間 3)環境とは	・人間とは ・健康障害とその影響 ・環境とは
10 11	健康と看護	1)健康とは、健康障害とは 2)ライフサイクルと健康	・WHO健康の定義、 ・発達・発達の概念、発達課題
12	看護における法的側面	1)法の概念 2)看護実践の職業的および法的規則 3)医療事故における法的責任	・法の概念 ・保健師助産師看護師法 ・法的責任、看護記録の位置づけ
13 14	看護職と看護活動 そしてチーム医療	1)看護職について（統計含む） 2)保健・医療・福祉の概念 3)サービス提供の場 4)保健・医療・福祉チーム	・就業看護職等 ・保健医療福祉におけるチーム活動 ・医療施設における看護活動他 ・チーム医療、継続看護と看護の役割 ・地域包括ケアシステム
15	まとめ	15回授業のまとめと知識の確認　※適宜知識確認実施	
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論,メディカ出版 ・池西静江他：看護学生スタディガイド,照林社	科目終了時の最終試験の評価：100%※授業・学修取組態度含む ＊主体的に授業・演習に参加し学修に取り組む

授　業　進　度　計　画

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎看護学概論Ⅱ (看護倫理・理論)	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・　実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20 時間)	必須	平田美由紀(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

基礎看護学概論Ⅰでの看護の概念の学びをもとに、看護理論・看護倫理について理解し、専門職として看護のあり方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護実践に役立つ看護理論について学習し、看護とは何かを科学的根拠から学ぶ必要性を説明できる。
2. 看護倫理に関する基礎知識と倫理的意思決定について理解し、専門職としての態度を表現することができる。
3. 「看護覚え書」をとおして看護について考える。

【実務経験】平田美由紀:看護師として5年以上の実務経験
臨床における看護実践場面を教材として学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト・事前配布のレジメ等による予習を行い授業に臨む

[授業の内容]

回	単元	内容	学習のポイント
1	看護倫理	1)看護倫理とは 2)倫理の歴史的経緯と看護倫理 患者の権利とインフォームドコンセット	・社会規範　・道徳的規範 ・患者の尊厳・平等 ・倫理綱領　インフォームドコンセント
2	〃	3)医療専門職の倫理規定 国際看護師協会の取り組み 我が国の看護倫理への取り組み	・ジュネーブ宣言　・ヘルシンキ宣言 ・日本看護協会倫理綱領　・人間の尊厳 ・権利擁護　自己決定権　守秘義務
3	〃	4)看護者の倫理綱領 事例演習	・看護の使命、目的 ・倫理的ジレンマ
4	看護理論と看護実践	1)看護理論とは何か (1)大理論・中範囲理論・小理論 (2)メタパラダイムとは	・大看護理論・中範囲理論・小理論 ・ニード論・発達理論　・メタパラダイム ・治療的セルフケア・デマンド
5	〃	2)各理論家について (1)マズローによる欲求の段階構造	・セルフケア能力・ ・普遍的、発達的セルフケア要件
6	〃	(2)オレム　セルフケア理論 (3)バージニアA.ヘンダーソン (4)事例演習	・マズローによる欲求の階段構造 ・常在条件・病理的状態 ・14の基本的項目
7	「看護覚え書」から 看護を理解する	演習:「看護覚え書」をとおして看護を考える ・看護とは	・各自で、「看護覚え書」を読み 看護とは
8	〃	・看護師の役割 1)各自でまとめる	看護師の役割についてレポートに まとめる
9	〃	2)グループでまとめる 3)成果発表	・レポートをもとに、グループでまとめる
10	まとめ	10回授業のまとめ	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論,メディカ出版 ・小林美雪　他:ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 ・ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの	1)科目終了時の最終試験の評価:100% 出席状況、授業態度、提出物を考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎看護技術論Ⅰ （コミュニケーション・感染）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
10回	1単位（20 時間）	必須	南原由理子（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護師が提供するさまざまな看護技術は、疾患による身体的な苦しみを少しでも軽減し精神的なストレスを緩和し、社会的な孤立から救い上げ、安寧や安楽をもたらすものである。看護技術の定義は「看護の対象である人間への働きかけであり、その人との関係の中で実施されるものであり、両者の相互作用の中に存在する。」と言われている。
その人にとって最も良いケアを提供するために知識・技術・態度を学んでもらいたいと考える。
また、「感染防止」は、対象の健康と安全を守る上で重要な技術であり、日常生活の援助、診療の補助業務において技術の基本となるものである。また抵抗力の低下した対象にとって感染は重篤な症状を引き起こす。医療施設等において感染対策は重要な課題であり、組織的に推進している。『人間関係の構築』と『感染予防』は看護実践において土台となる重要な技術である。臨床で活用できるレベルまで系統立てて理解し実施できることをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.看護におけるコミュニケーションの意義を理解し効果的なコミュニケーションについて説明できる
2.標準予防策について専門用語を用いて説明できる。
3.感染予防の基本である手洗いと手指消毒を正しく実施できる。

【実務経験】南原：看護師としてともに5年以上の実務経験
臨床における看護実践場面を教材として学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	看護技術とは	1)看護技術の構成要素 2)これから学ぶ看護技術とは	知識・技術・態度 コンテクストとアート
2	コミュニケーションに関する基礎知識	1)コミュニケーションの基本原理 2)コミュニケーションの種類とその概要	言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション
3	看護における面接	1)障害に応じたコミュニケーション	コミュニケーション技術とは 面接技法
4	感染防止対策の基本	1)感染防止の基礎知識 2)スタンダードプリコーション（標準予防策） 3)感染経路別予防対策	・感染の連鎖 ・スタンダードプリコーション ・接触感染、飛沫感染、空気感染
5	感染症予防のプロセス	1)感染経路別予防対策 2)洗浄・消毒・滅菌 3)滅菌物の取り扱い	
6	感染防止の技術	1)手洗い　手指消毒 演習①	・日常的手洗い　・衛生的手洗い ・手指消毒
7	感染症予防のプロセス	1)消毒薬品について 2)無菌操作について	・消毒法、滅菌法、滅菌物の管理
8	感染防止の技術	1)滅菌手袋の着脱 演習② 滅菌手袋の着脱	
9	技術試験		
10	感染防止の技術まとめ		
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術　メディカ出版
・竹尾恵子：看護技術プラクティス、改訂3版、学研
・藤本秀司：わかる！身につく！病原体・感染・免疫　改訂2版　南山堂

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1)科目終了時の最終試験の評価：100%
2)最終試験受験資格：技術試験に合格している者
＊授業参加状況・学習態度・提出物の提出状況も考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎看護技術論Ⅱ （バイタルサイン・看護記録）	看護学科/1年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
10回	1単位（ 20 時間）	必須	吉田展子（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護展開の基盤となる看護技術の特徴や基本原則を理解し、個への適応の判断ができる思考の基礎を学ぶ。また対象となる人の健康状態を系統的に情報収集して、査定するための基本となる看護技術「バイタルサイン」「記録」について学ぶ。ここでの学習が全ての看護技術の基盤となり、個への看護実践につながることをねらいとする。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］

1. 生命をもつ人を対象に実践される看護技術の特徴について説明できる。
2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援、個への適応について説明できる。
3. バイタルサインの意義と体温・脈拍・呼吸・血圧の意義、メカニズム、影響因子、測定方法について説明できる。
4. 診療情報としての看護記録の意義、留意点について説明できる。

【実務経験】吉田展子:看護師として5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面の教材化、正確な技術習得ができるよう工夫し授業を展開する

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	看護技術の構成	1）看護技術とは 2）看護技術の特性と基本原則 3）看護ケアの要素	・サイエンスとアート ・科学的根拠に基づいた看護（EBN） ・看護の3H
2	バイタルサイン	1）バイタルサインの意義 2）呼吸　メカニズムと影響因子	
3	〃	3）脈拍　メカニズムと影響因子 測定方法	
4	〃	4）体温　メカニズムと影響因子 測定方法	＊理解度確認テスト①
5	〃	5）血圧　メカニズムと影響因子 測定方法　触診法と聴診法	
6	血圧測定の実際	血圧計の構造・名称 測定方法　触診法と聴診法 ★援助計画の作成	＊理解度確認テスト②
7	バイタルサインの実際	1）バイタルサイン観察の実際	
8	〃	演習：体温、脈拍、呼吸、SPO_2、血圧 全身の動脈の触知、記録	
9	記録と報告	1）看護記録の意義 2）記載時の留意点	・法的位置づけ
10	技術試験	血圧測定の技術試験	
	試験	上記終了後　期末試験	

［使用テキスト］

・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ.基礎看護学
・松尾ミヨ子：ナーシング・グラフィカ.基礎看護学②.
・竹尾恵子：看護技術プラクティス.学研

［参考文献］

・高橋照子他：看護学原論.南江堂

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1）科目終了時の最終試験の評価：100%
単位認定を受けるためには、技術試験に合格することが必要
＊授業参加状況・学習態度を考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎看護方法論Ⅰ（環境・活動）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	平田美由紀（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
看護展開の基礎となる技術の原理・原則を理解し、対象に必要な日常生活援助の「環境」「活動と休息」を提供するための知識、及び、基本的技術を臨床で活用できるレベルとして学ぶ。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. 看護の対象となる人の生活環境を整えるための基本的技術の原理・原則を説明できる。
2. 看護の対象となる人と看護の実践者双方の安全、安楽、かつ効率的な姿勢や動作（ボディメカニクス）について基本的考え方を説明できる。
3. 人間の自然な動きを理解し、日常生活に障害のある対象への自立を支援する基本技術を習得する。
4. 日常生活における活動と休息のニーズを充足するための基本技術を習得する。

【実務経験】平田美由紀：看護師として5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う
【準備学習】授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	環境を整える援助	1)環境の意義と環境整備 2)室温と湿度、プライバシー保護	・環境・人間・健康との関連
2	〃	3)騒音　採光と照明 4)病室の環境調整 環境整備の実際	・病床環境のアセスメント ・実習室の構造、使用方法の理解
3	〃	1)病床とベッド 2)ベッドメーキング　★援助計画の作成	・病床環境の整備
4	〃	3)ベッドメーキングの実際	
5	〃	演習：クローズドベッド	
6	〃	1)クローズドベッドの作成	・技術試験(クローズドベッドの作成)
7	〃	〃	
8	活動・運動の援助	1)人間における活動とは	
9	〃	2)活動とは 3)運動とは 4)活動制限が人間に及ぼす影響とは	
10	〃	1)体位変換 側臥位　水平移動　座位	人間の自然な動き (寝返る・起きる・座る・立つ・歩く)
11	〃	2)体位変換の実際 演習：側臥位　水平移動　★援助計画の作成	・ボディメカニクスの原則に基づいた技術
12	〃	3)移動・移乗の実際 車椅子、輸送車、歩行援助 演習：車椅子移乗と移送	・ボディメカニクスの原則に基づいた技術
13	睡眠・休息の援助	1)休息の意義 2)睡眠とその援助 3)休息への援助	・サーカディアンリズム
14	臥床患者のシーツ交換	1)臥床患者のシーツ交換	
15	〃	演習：臥床患者のシーツ交換★援助計画の作成	
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術　メディカ出版
・F.ナイチンゲール,薄井坦子他訳：看護覚え書き、現代社
・竹尾恵子：看護技術プラクティス　改訂3版、学研

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
1)科目終了時の最終試験の評価：100%
2)最終試験受験資格：技術試験に合格している者
＊授業参加状況・学習態度を考慮する

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎看護方法論Ⅱ（清潔）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	平田美由紀（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護展開の基本となる清潔援助技術の根拠を人体の構造と機能から理解する。そして、対象の個別性をふまえた清潔援助を実施するための基本的技術・観察力・判断力を演習を通して学ぶ。

看護は清潔援助をはじめ看護技術を通して、対象の自然治癒力を高めるように働きかける。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において対象に必要な看護技術の基本を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解し、実施できることをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.健康障害時の衣生活について、専門用語を用いて説明できる。
2.健康障害時の清潔援助について、皮膚の構造と機能を理解し、専門用語を用いて援助方法を説明できる。
3.清潔援助のアセスメントを行い、根拠に基づいた基本的な看護技術を実施できる。

【実務経験】平田美由紀：看護師として5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト・事前配布のレジメ等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	清潔援助の基礎知識	1)清潔の意義 2)清潔援助の基礎知識	・清潔の生理的意義・心理的社会的意義 ・皮膚・粘膜のメカニズム
2	衣生活の援助	1)衣生活援助の基礎知識 2)日常生活と衣生活行動	・衣生活の生理的意義・心理的社会的意義
3	〃	3)健康障害時の衣生活のアセスメントと援助方法 4)病衣の選び方、寝衣交換	・病衣の条件 ・寝衣交換
4	衣生活の援助の実際	1)寝衣交換の実際 寝衣交換援助計画の作成	・個別性を考えた援助とは ・安全、安楽、自立を踏まえた援助計画
5	〃	演習1)臥床患者の寝衣交換 ★援助計画の作成	
6	〃	〃	
7	健康障害時の清潔援助	1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ①入浴・シャワー浴・洗髪	・清潔行動とその影響 ・援助を行うためのアセスメント
8	〃	②清拭・部分浴（手・足浴・陰部洗浄）	・援助の目的 ・個別性を考えた援助とは
9	〃	1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ③口腔・鼻・耳の清潔・整容	・プライバシーの保持 ・安全、安楽、自立を踏まえた援助
10	演習	演習2)手浴・足浴　★援助計画の作成	
11	演習	演習3)洗髪　★援助計画の作成	
12	演習	〃	
13	演習	演習4)全身清拭　★援助計画の作成	
14	演習	演習5)全身清拭（陰部清拭含む）	
15	技術試験	技術試験　全身清拭	
	試験	演習終了後　期末試験	

［使用テキスト］
・ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術　MCメディカ出版
・F.ナイチンゲール,薄井坦子他訳：看護覚え書き,現代社
・プラクティス　学研

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
科目終了時最終試験評価：100%

最終単位認定：単位認定試験と技術試験にともに合格している者
※技術試験：5回以上全身清拭の練習を実施した者は、受験することができる

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎看護方法論Ⅲ （食事・排泄）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	中西 文香 （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

看護展開の基礎となる技術の原理・原則を理解し、対象に必要な日常生活援助の「食事」「排泄」を提供するために必要な知識と技術を習得し、習得した看護技術を科学的に説明し、実施できるよう本科目において「食事」「排泄」に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1. 食事に対する基本的欲求を理解し、対象に応じた食事援助の必要性・方法を原理・原則に基づいて説明できる。
2. 排泄に対する基本的欲求を理解し、対象に応じた排泄援助の必要性・方法を原理・原則に基づいて説明できる。
3. 基本的な食事援助・排泄援助を実施できる。

【実務経験】中西文香：看護師として5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	食事と栄養	1)食の意義	・食べることの意義
2	食事に関する生理的メカニズム	1)消化・吸収 2)嚥下の過程・評価	・消化・吸収 ・嚥下障害のメカニズム
3	食事・栄養に関する基礎知識	1)栄養素 2)食事摂取基準 3)栄養状態のアセスメント	
4	経口摂取の援助	1)食事介助方法 2)口腔ケアの援助	・食事のプロセス ・食事の援助
5	食事援助の実際	演習1)	
6		食事介助と口腔ケア 食後の観察	・食事介助 ・口腔ケア
7	非経口的栄養援助	1)食事の基本的援助の振り返り 2)非経口摂取の援助	・安全な経口摂取の援助 ・経鼻経管栄養法、中心静脈栄養法
8	排泄の意義	1)排泄の意義 2)排尿のメカニズム 3)排便のメカニズム	・排泄の意義 ・排尿・排便のメカニズム ・排尿・排便を促す基礎知識
9	排泄アセスメントと援助	1)排泄の正常値とアセスメント 2)排泄の援助方法 3)排泄用具の選択	・排泄のアセスメント ・排泄援助を受ける患者の気持ち ・安楽で排泄しやすい体位
10	排尿・排便障害の種類	1)排泄行動を阻害する活動・運動上の要因 2)自然排尿・排便を阻害する要因 3)排泄援助のポイント	・排尿障害・排便障害 ・尿器・便器の種類と挿入の仕方
11	排尿・排便の援助方法	1)床上排泄の注意点 2)床上排泄の適応 3)おむつ交換・尿器・便器	
12 13	床上排泄の援助方法の実際	演習2) 便器・尿器の当て方 環境調整・プライバシーの配慮	・安全・安楽な排泄の体位 ・羞恥心への配慮
14	演習の振り返り 排泄経路の変更	1)排泄援助の振り返り 2)ストーマ造設患者の看護 3)排尿排便困難時の対応	・1次的導尿・持続導尿・グリセリン浣腸・摘便
15	まとめ	上記学習の確認	

［使用テキスト］

・松尾ミヨ子他編：ナーシング・グラフィカ　基礎看護学
③基礎看護技術Ⅱ、メディカ出版
・竹尾惠子：看護技術プラクティス,学研

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

科目終了時の最終試験の評価：　100　％

出席状況、授業態度、提出物を考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床援助技術論Ⅰ（与薬）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	山下美紀（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
既習の知識を活用し、薬物療法を受ける対象のニーズを理解し、安全で効果的な与薬を行いうために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］
1. 正確・安全な与薬法を行うための基礎知識が説明できる。
2. 薬物療法における看護の役割が説明できる。
3. 正確な知識にもとづいた、安全かつ苦痛の少ない与薬の基本技術が習得できる。

【実務経験】山下美紀：看護師・助産師としてともに5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	与薬の基礎知識	1)与薬とは 2)与薬における法的根拠 薬物表示　薬剤の体内動態	・体内動態と吸収時間 ・保助看法　医療法
2	各種与薬の援助方法	1)看護師の役割 2)正しい与薬　薬の管理 3)経口与薬	・看護師の役割 ・6R　3回の確認 ・特徴の理解
3	〃	4)直腸内与薬　点眼　吸入　経皮的与薬	★理解度確認テスト①
4	注射による与薬法	1)注射法の基礎知識　注射方法と種類 2)薬液の準備(アンプル　バイアル)	
5	〃	3)皮内注射	★理解度確認テスト② ・注射部位選定のアセスメント
6	〃	4)皮下注射	
7	〃	5)薬液準備の実際 演習：薬液の準備　アンプルからの吸い上げ	★理解度確認テスト③ ・無菌操作
8	〃	6)皮下注射の実際 演習：皮下注射	
9	〃	★援助計画の作成 7)筋肉内注射	
10	静脈内注射	1)静脈内注射の基礎知識	★理解度確認テスト④
11	技術試験	1)薬剤の準備・皮下注射	
12	点滴静脈内注射	1)点滴静脈内注射の基礎知識	
13		2)点滴中の看護 ★援助計画の作成	
14	与薬における安全	1)注射業務と事故防止 針刺し防止策について	★理解度確認テスト⑤
15	〃	まとめ	
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・志自岐康子他：ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術．メディカ
・竹尾恵子：看護技術プラクティス．学研
・古川裕之：ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち② 臨床薬理学．メディカ

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
1)科目終了時の最終試験の評価：100%
2)授業参加状況：(遅刻・早退を考慮する)を加味する
単位認定を受けるためには、技術試験に合格することが必要
＊授業参加状況・学習態度を考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床援助技術論Ⅲ （経過別・症状別）	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15 回	1単位（ 30 時間）	必須	吉田 展子（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
健康障害を持つ対象を理解し、対象の状態に応じた看護の考え方と看護援助を理解することを目的とする。看護の対象を健康上のニーズを持つ生活者という視点から捉え、対象の成長・発達段階における特徴および各段階における健康課題・問題と主要症状や疾病の経過に応じた看護の基本を学ぶことをねらいとする。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1.疾患の経過に基づく対象のニーズを理解し、援助方法を説明できる。
2.各症状の根拠を病態生理から説明できる。
3.疾病の症状に基づいて対象のニーズを理解し、援助方法を説明できる。

【実務経験）吉田展子：看護師としてともに5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	対象の理解	1）発達段階と健康上のニーズ	・常に生活者の視点を考えて対象理解ができる
2	経過別看護	1）急性期にある対象のニーズと看護	
3	〃	2）リハビリテーション期の対象のニーズと看護	
4	〃	3）慢性期にある対象のニーズと看護	
5	〃	4）終末期にある対象のニーズと看護	
6	症状別看護	1）発熱のある患者への看護	・各症状を根拠に基づいて理解できる ・症状に応じた対象への適用方法を理解できる
7	〃	2）痛みのある患者への看護	
8	〃	3）呼吸困難のある患者への看護	
9	〃	4）悪心・嘔吐のある患者への看護	
10	〃	5）便秘のある患者への看護	
11	〃	6）浮腫のある患者への看護	
12	〃	7）嚥下障害のある患者への看護	
13	〃	8）意識障害のある患者への看護	
14	〃	9）片麻痺のある患者への看護	
15	〃	10）まとめ	
	試験	上記授業終了後、期末試験	

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・任和子：ナーシンググラフィカ　基礎看護学⑤ 臨床看護総論，メディカ出版． ・林正健二：ナーシンググラフィカ人体の構造と機能　解剖生理学、メディカ出版．	1）科目終了時の最終試験の評価：100%

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
看護演習Ⅰ （基礎Ⅰ:技術・リフレクション）	看護学科/1年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
8 回	1単位（ 15 時間）	必須	中西　文香（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

1年次に学習してきた「知識」・「技術」を統合し看護を実践する科目である。看護実践には対象者がどの様な看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここではその基盤となる観察技術や情報収集から必要な日常生活援助を見出し、実施評価できることをねらいとする。 また初めての臨床実習である「基礎看護学Ⅰ実習」において効果的に看護を展開できる内容とする。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］

1. バイタルサインの観察結果から事例をアセスメントし、日常生活援助計画の立案ができる
2. 援助計画に基づいて援助を実施し、安全・安楽の視点から目標達成状況を評価できる
3. 自己の基本技術習得レベルを知り、自己の課題を明確にすることができる
4. 技術試験の合格を通して、前向きに基礎看護学Ⅰ実習に臨むことができる

【実務経験】中西　文香：看護師としてともに5年以上の実務経験
これまでの学修の学びを統合し、基本的援助技術を習得し基礎看護学Ⅰ実習に臨めるよう授業展開する

【準備学習】
既習学習の復習ならびに予習（課題）を行い授業（講義・演習）に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	オリエンテーション	1）科目のねらい、学習方法の説明	・模擬患者の想いを考えニーズをグループ内でディスカッションする
2	〃	2）実習オリエンテーション	基礎看護学Ⅰ実習手引きについて
3	事例演習	3）援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりより技術を追求する
4	〃	4）計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正 5）対象事例に適した援助が実施できる	
5	単位認定技術試験	1）技術試験 バイタルサインの観察と解釈・判断	
6	リフレクション	基礎看護学Ⅰ実習の振り返り	
7	リフレクション	同上	
8	基礎看護学Ⅰ実習 リフレクション発表会	基礎看護学Ⅰ実習　リフレクション発表会	

［使用テキスト］

・基礎看護学概論、方法論、臨床援助技術論で使用したテキスト及び配付した資料など
・プラクティス　学研

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1）最終技術試験の評価　100%
2）技術試験に合格した者が以後の実習に参加することができる
3）技術試験は演習の全時間を履修したものが望むことができる

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
在宅看護概論	看護学科1年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
8回	1単位（15時間）	必須	佐藤 洋子 （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

在宅看護が必要とされる社会的な背景をふまえ、在宅看護の概念と対象、活動の場、地域社会と生活に根差した活動方法の特徴について学ぶ。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.在宅看護の歴史、社会的背景から在宅看護の特性と看護者の役割について説明できる。
2.在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を説明できる。
3.在宅ケア・在宅看護の制度とシステムから関連職種の役割と連携の必要性を説明できる。

【実務経験】佐藤洋子：保健師として5年以上の実務経験。
保健師として地域での看護実践を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い授業を行う。

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	在宅看護とは?	1.地域と生活 2.在宅看護の対象 3.命と生活を看る訪問看護サービス（DVD） レポート作成・提出	・暮らし ・すべての年齢層、あらるゆ健康レベル ・訪問看護ステーション ・生活者の視点
2	QOL	1.希望は必ず見つかる がん看護専門看護師　田村恵子氏	・QOL
3 4	社会的背景を知る	1.地域社会の構造と構成要素 人口・世帯数・要介護者・社会資源	・国民生活基礎調査 ・ICF(国際生活機能分類) ・地域包括支援センター ・高齢者の健康に関する意識調査 ・地域包括支援センター
5	政策と事例	2.地域包括ケアシステム 地域・在宅看護活動 「暮らしの保健室」「高齢者居場所づくり」 「コミュニティナース」など	・インフォーマルな資源・フォーマルな資源 ・社会資源と関連職種との連携 ・地域包括ケアシステム 自助・互助・共助・公助
6	在宅での食事	1.食べる楽しみが希望を生み出す 訪問管理栄養士　中村育子氏	・在宅は食事が楽しみ ・誤嚥性肺炎 ・多職種連携と地域連携
7	老々介護・認知症	1.演じて看る 認知症介護を救った演劇（DVD45分）	・老々介護 ・認知症
8	在宅看護の変遷	1.訪問看護の変遷 2.「最期のときの思いをつなぐ」視聴 日本初の開業ナースが在宅看護の道を拓く （在宅看護研究センター　村松静子氏） 平成23年ナイチンゲール記章受章	・地域共生社会の実現に向けての連携・協働
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］

・櫻井尚子他：ナーシング・グラフィカ
在宅看護論　地域療養を支えるケア，メディカ出版
・厚生統計協会編、国民衛生の動向
・渡辺裕子他：地域・在宅看護論，日本看護協会出版会
・山田雅子他：地域・在宅看護の実践，医学書院

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1)科目終了時の最終試験の評価：100%
2)授業参加状況（出席状況を含む）を考慮する

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
成人看護学概論	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（30時間）	必須	鎌田寿子　奈良育代（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］

本科目は、ライフサイクルにおける成人に焦点を当て成人の理解と基本的な看護について学ぶ。成人期は生活習慣や加齢に伴って健康問題をきたしやすく、いったん健康が障害されると周辺の人々にも影響が及ぶ。一方、成人期は生産性に優れているが、健康上の問題に対する取り組み方は個々の価値観や考え方による。このような成人期の特徴を踏まえ、成人をとりまく社会環境や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能などから、さらに発達課題の視点から、成人期にある人とその家族について看護の基本的な方法を学ぶ。また、成人看護実践で活用される基本となる諸理論の基礎的考え方について学び、対象を総合的・全人的にとらえる方法を学ぶ。それにより、後続する2年次の基礎看護学Ⅱ実習、成人看護方法論、老年看護方法論、さらに成人・老年看護学実習の基盤となる考え方を学ぶ。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.ライフサイクルにおける成人の位置づけについて説明できる。
2.成人期にみられる健康障害について、成人の特徴・生活行動と関連づけて説明できる。
3.成人への看護に有用な理論にはどのようなものがあるか説明できる。
4.授業を通して自分自身の生活と健康について振り返り、より良い生活の実践について考える機会となる。

【実務経験】鎌田寿子・奈良育代：看護師として5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面等を教材とし、成人期の対象理解、看護のあり方を学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】
テキストによる予習ならびに授業の復習を行い主体的に授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	成人の特徴	1.成人の定義と特徴	成人の定義、成人の成長発達と各期の特徴
2		(1) 成人の定義　(2)成人各期の成長発達	エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン
		(3)成人役割（家族・社会）	成長発達のアセスメントポイント
		(4)成人各期の健康問題と意思決定支援	健康問題（課題）と意思決定
		(5)身体機能の特徴	アドバンス・ケア・プランニング
3	成人の生活と健康	1.成人の生活の理解	生活を営むとは、生活と健康との関係
		(1)生活とは　(2)成人の生活の理解	多様な健康観
		2. 健康と健康観の多様性	
		(1)健康観の動向　(2)健康観の多様性と保健行動	
4	成人期にみられる健康障害	1.生活習慣に関連する健康障害	生活習慣と生活習慣病
5	（演習・発表含む）	(1)生活習慣病の要因	成人各期の健康問題と衛生動態
6		(2)健康問題の現状と対策	・人口　・各期の有訴率・受療率
7		2.ワークライフバランスと健康障害	・各期の死因・死亡数（率）
		(1)職業と健康　(2) 生活ストレスと健康障害	・自殺死亡率　・メンタルヘルス
		(3)活動の効果とメンタルヘルス	ワークライフバランス
8	健康を考える	1.自分自身の健康を活動・食・睡眠から考える	健康の定義
9	（発表含む）	・健康を生活から評価する　・健康を考えたお弁当	
10	更年期にみられる健康障害	1.更年期と更年期障害とは	更年期障害
		2. 更年期と心身の健康障害	
		・原因と症状　・予防と治療	
11	まとめ①	授業1～10　まとめとポイント ※進度により10回目の授業内容の続きもある	
12	セルフケア理論の基礎	1.セルフケアとは	セルフケア能力、自助と自己決定
	（セルフケア不足理論）	2.オレムのセルフケア理論	セルフケア要件（普遍的・発達的・健康逸脱）
		(1)三つの理論構成　(2)セルフケア理論	セルフケア・エージェンシー、治療的セルフケア・デマンド
		(3)セルフケア不足理論　(4)看護システム理論	全代償・部分代償・支持システム、パターナリズム
13	危機理論の基礎	1.危機とは　2.危機の特徴　3.危機介入	エリクソン発達理論、発達的・状況的危機、予期的指導
14	自己効力理論の基礎	1.自己効力とは　2.行動変容の鍵	行動変容、モデリング、結果予期と効果予期
		3.自己効力を高める4つの情報源	自己効力を高める4つの情報源
15	まとめ①	授業11～13　まとめとポイント	自己概念と自尊感情
	試験	以上終了後、期末試験	

［使用テキスト］

1)安酸史子他：ナーシンググラフィカ成人看護学①成人看護学概論，メディカ出版，2023.
参考図書：ナーシンググラフィカ成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得，成人看護学③セルフマネジメント

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）

1)科目終了時の最終試験の評価（記述試験）：100%
2)学習課題への取り組み・授業参加状況を考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
老年看護学概論	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30時間）	必須	桑原　真弓(非常勤) (実務経験有)

［授業の目的・ねらい］

本科目は老年看護学のイントロダクションにあたり 1.高齢者をその家族と共に一人の生活者としてとらえることができる 2.生理的老化が個人にもたらす影響を理解することができる 3.高齢化社会の保健医療福祉の変遷と今後の課題を理解することができる などを授業の目的としており、これらより看護者の役割を考える。授業方法としては座学だけでなく、グループ学習により、主体的に学ぶ。常日頃より高齢者に関する社会問題、介護問題に関心をもち、新聞や雑誌などで正確に理解しておくなど、学生自ら課題を見つけ、学び、考える姿勢を身につける。

［科目修了時の達成課題（行動目標）］

1.高齢者の個別性を理解し、生活の視点からとらえて説明できる。

2.高齢者を身体的、精神的、社会的に広く多面的に理解し、説明できる。

3.高齢者の倫理的問題を理解でき、ケアを支える制度及び自立を支援する制度の活用方法を説明できる。

【実務経験】桑原真弓：看護師として5年以上の実務経験
臨床での看護実践場面等を教材とし、老年期の対象理解、看護のあり方を学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1 2	老年期の理解 〃	1)加齢と老化 2)ライフサイクルと老年期 3)高齢者の多様性	・老年看護学の概念と自己のもつ老年に対するイメージを照らし合わせる ・多種多様な個人とその家族を全人的にとらえる ・発達課題（ハヴィガースト、エリクソン） ・生活史を通じて高齢者理解を深める
3 4	高齢者の健康に関する指標 〃	1)高齢者人口の推移 2)我が国の人口高齢化の特徴とその影響 3)高齢者生活の現状	・高齢者に関する統計的特徴
5 6 7 8	加齢に伴う変化 〃 〃 〃	1)身体機能の生理的変化 2)心理・精神機能の変化 3)社会的機能の変化 4)高齢者体験　※用具を装着し高齢者を体験する	・加齢による機能の変化 ・高齢者と家族の機能 ・高齢者体験を通して加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について考察する
9	老年看護の概念	1)老年看護の基本的姿勢 2)老年看護実践の視点 3)老年看護に期待される役割	・高齢者のための国連原則 ・高齢者の健康の保持増進 ・関連職種とのチームアプローチ
10 11	老年看護の倫理 〃	1)高齢者の権利保障 2)インフォームドコンセントと自己決定の支援 3)高齢者の身体拘束 4)高齢者虐待	・事前指示　など ・高齢者虐待における我が国の特徴
12 13	高齢者の保健・医療・福祉制度の動向 〃	1)高齢者を支える制度 2)高齢者を支える社会資源 3)地域包括ケア	・介護保険制度　など ・施設サービス・在宅サービスにおける看護
14 15	高齢者の生活を支える看護 〃	1)高齢者の生活アセスメント 2)加齢による変化の特徴を踏まえた援助	・高齢者の生活アセスメント（CGA等） ・コミュニケーション、・歩行・移動等
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・堀内ふき他：ナーシンググラフィカ　老年看護学①
高齢者の健康と障害、MCメディカ出版
・国民衛生の動向、財）厚生統計協会

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1)科目終了時の最終試験の評価：100%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
小児看護学概論	看護学科/1年次	令和6年度	(講義)・(演習)・実習
授業の回数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	塩山 秀子 （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
小児の特性を学び、現代社会に生きる子どもやその家族の問題を、医療・福祉・社会環境の視点から理解を深めるとともに、倫理的判断能力を養い、子どもの権利を守るという視点から小児看護の役割と課題について理解することをねらいとする。

［科目終了時の達成課題(行動目標)］
1.小児看護の歴史的な変遷を振り返り、小児看護の歩みを理解するとともに、小児の特性、小児看護の概念を記述できる。
2.社会の動向や小児保健医療の動向を理解し、小児看護の役割、他職種との連携の必要性について記述できる。
3.子どもの成長発達の一般原則及び基礎となる理論と成長発達を説明できる。

【実務経験】塩山秀子：看護師として5年以上の実務経験
臨床での小児看護実践経験、学生の幼少期での体験の想起を促す等教育方法を工夫する

【準備学習】
授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	小児看護の概念	1)小児と環境	
2	〃	2)小児看護の特徴と役割	【レポート】 ・「小児の入院が家族に及ぼす影響」の動画を視聴し、レポートを書く
3	〃	3)小児看護における倫理	
4	小児と社会	1)小児保健をめぐる法律と政策	【グループワーク】1 ・イラストを見て子どもに説明しよう
5	〃	2)小児を取り巻く医療の変遷と課題	
6	〃	3)小児の保健統計	【調べ学習】 ・少子化に関する統計
7	〃	4)現代社会と小児の問題	・小児に関する統計全般
8	〃	5)小児の予防接種	
9	〃	6)学校保健の動向	
10	〃	7)小児看護で用いられる理論	【グループワーク】2 エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論
11	〃	8)理論の発表会	ボウルビィのアタッチメント理論など
12	小児の成長と発達	1)子供の成長・発達の原則と影響因子	
13	〃	2)心理社会的発達	
14	〃	3)身体発育の評価と心理社会的発達の評価	【グループワーク】3 実例を通して発育・発達の評価をしよう
15	〃	4)まとめと国試対策	
			※各講義にからめ国試問題を出題し、1年生から国試問題に触れ慣れていく
	試験	上記終了後、期末試験	

［使用テキスト］
・中野綾美他：ナーシング・グラフィカ　小児看護学
①小児の発達と看護、メディカ出版
・厚生統計協会編　国民衛生の動向(最新版)
・看護学生スタディガイド

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
1)科目終了時の最終試験の評価：100%
2)授業参加状況・学習態度・提出物の期限と内容も考慮する

授　業　進　度　計　画（シラバス）

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎看護学Ⅰ実習 （対象理解）	看護学科/1年次	令和6年度	講義　・　演習　・　(実習)
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授業担当者
	1単位（45時間）	必須	中西文香 （実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
健康障害を持つ対象を理解し、看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度を習得する。

［実習目標］
1. 対象の現在の状態が説明できる。
2. 対象の健康状態に配慮したコミュニケーションを図ることができる。
3. 指導者・教員とコミュニケーションを図ることができる。
4. 看護の基本技術（共通基本技術）が正確に実施できる。
5. 原理・原則に基づいた日常生活援助が指導者・教員・グループメンバーと共に実施できる。
6. 看護学生としての基本的態度（知識・技術・態度の統合）がとれる。

【実務経験】中西文香他：看護師として5年以上の実務経験
これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する

【準備学習】
実習に行く前に、実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読し、事前学習に取り組む。

［授業の内容］
＜実習展開＞

※詳細は、「実習の手引き」を参照

1. 施設職員よりオリエンテーションを受け、施設を見学する。
2. 安全面に配慮した、施設、フロアーの構造を知る。
3. 施設職員や看護師と行動を共にし、援助の実際を見学実習する。
4. コミュニケーションが可能で、日常生活援助の必要な利用者を受け持つ。
5. 利用者とのコミュニケーションから情報を得て、必要とする日常生活援助について考える。
6. コミュニケーションや観察から、利用者の生活や発達段階を考える。
7. 学生としての基本的態度をとる。
8. 実習前に基本技術の演習を行う。
9. 記録を通し、思考過程を振り返る。
10. 実習終了時に実習の学びを共有する。

［参考資料］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・基礎看護学概論、方法論、臨床援助技術論で使用したテキスト及び配付した資料など ・プラクティス，学研．	1)実習評価表に示す基準に基づいて評価する 方法：実習状況、実習記録、レポート、出席状況から行う

令和6年度

授業進度計画

令和6年4月1日発行

学校法人穴吹学園　穴吹医療大学校